

下さんはサーフィンをするため同町の海部高校に進学し、卒業後は波を求めてオーストラリアを中心に10年ほど海外を放浪。帰国後、のんびり暮らそうと同町で農業を始め、DJ経験もある岡久さん

は「世界にはまだまだ乗りたい波がある」と国外に飛び出す計画を持つ。グループ活動がとっても楽しいんです。

元々の仕事と両立しながら活動するメンバーもあり、そこに加わる山下さんの弟貞也さ

れぞれが夢を持っている。なかいま屋の活動はその夢を現させる手段でもある。山下さんは「世界にはまだまだ乗りたい波がある」と国外に飛び出す計画を持つ。グループ活動がとっても楽しいんです。

神山町の私立校「神山まる」中学3年生対象クールが開かれ、島を含む27都道

陽町

されるティールボールの国際大会「第15回アジアinANAN(JAPAN)2024」(アの参加国や試合形式などの概要が固まった。モ港など七つの国・地域と、県内外から計28チームには海外からの参加者に日本文化を楽しんでいる。

でおもてなし

阿波踊りで交流したりして「徳島の夏」を味わってもらおう。

阿波踊りで歓迎・懇親会も

事業費は市からの補助金や協賛金、参加費を合わせた540万円。このうち参加費の一部など30万円を子どもの貧困対策に取り組む団体に寄付する。期間中、市内には参加者や保護者計800人ほどが滞在する予定で、市への経済効果は宿泊、買い物などで5千万円以上を見込んでいる。

(富士佳輝)

和紙作りの全工程体験

山川「伝統産業会館」で海外作家



木の棒でコウゾをたたいて繊維をほぐす参加者＝吉野川市山川町の阿波和紙伝統産業会館

四国4新聞社共同企画

阿波和紙作りの原料処理から紙すきまで全工程を体験してもらう「阿波手すき和紙研修会」が、吉野川市山川町の阿波和紙伝統産業会館で開かれている。

期間中に和紙の手すきまでの工程を体験するほか、和紙の藍染などにも挑戦する。

日本のほか、米国やシンガポール、アルゼンチンなど8カ国からアーティストら13人が参加し、16日、20日の日程で実施。2日目の17日は、コウゾの白皮から不純物を取り除いた後、木の棒でたたいて繊維をほぐす「打解」と呼ばれる作業を行った。繊維が水に溶けや

米ロサンゼルスから訪れた写真家のデュエイン・マーフィさん(55)は「印刷する紙の種類によって写真のイメージは変わるので、紙は大切。千年以上の歴史がある和紙作りを体験できてわくわくしている」と話した。

(石津遠)



起業参加